

1/10 誌

生活保護163万9千世帯

昨年10月 1人暮らし貧困化

昨年10月に生活保護を利用した世帯は163万9185世帯で、前年同月より3722世帯減ったことが9日、厚生労働省の調査でわかりました。全体は減っているものの、1人暮らしの高齢者世帯では増えており、高齢化の進展に伴い増加する1人暮らし世帯の貧困化が浮き彫りになりました。

世帯類型別（保護停

止中を除く）にみると、高齢者世帯は8万2001世帯で、全利用世帯の54・1%を占めました。前年同月と比べて、単身世帯が1万8066世帯増えた一方で、複数世帯は1397世帯減りました。高齢者世帯では公的年金が主な収入源で、国の年金削減や医療・介護の負担増などで苦しい生活を送る世

帯は少なくありません。調査結果は、親族の死亡などで1人暮らしになり、生活保護水準に陥るケースが多いことを示唆しています。

このほかの世帯では、障害者世帯が19万9799世帯で、前年同月より4290世帯増えました。

母子世帯は8万6725世帯、傷病者世帯は21万3525世帯、失業者などのその他の世帯は24万8551世帯で、いずれも前年同月より減りました。